

食に幸あれ

見川中 二年 市野沢 里奈

私は「食」について、こだわりがあります。それは、みんなが食べることです。

一人で食事をするくらいの悲しいことは、ないと思います。

そう感じられるのも、母と父がいて、私が産まれて、兄弟ができて、家族がいたからです。毎日、朝昼晩の食卓を家族みんなが囲んで、あたりまえのように食事をしています。

でも、それがとても貴重なことであたりまえではないのが、あたりまえな毎日を送っている人たちもいることに気づかされました。そのことに気づいたのは、みんなが晩ご飯を食べているときのことでした。

ふと、テレビに目を向けると、そこには食料や薬品が充分に行き届いていないアフリカの貧しい子供たちが映っていました。

産まれて間もない命が、知らぬ間に亡くなっていたら、水がなかったらと私には理解で

きず、とても信じられない光景でした。

私は、テレビを見て感じたことがありました。それは、今まで以上に食事への感謝の気持ち改めることです。

食事の前には、手を合わせ黙想をします。食料や作ってくれた人に感謝の気持ちを込めて、いただきますのあいさつをします。大切なことは残さず食べることです。

家族一緒にこれからも続けていきます。

それから、私は買い物に行くと、レジのそ

ばにある募金箱に必ず募金をしました。一円でも多く募金されるように。

このように、毎日の食事で学ぶことがあります。さらに、たぐさんの発見もありました。あたりまえをあたりまえと思っではいけないこと。私は、恵まれた環境に産まれたこと。産まれて物心ついたときには、一人で食事をするなんてことは一度もありません。

こうして、自分の好きなものが食べられること、味わえられること、調理でまること、

何より、食事が生活の一部だと言うことに、  
心から感謝し、そしてこれからも忘れないよ  
うに毎日の食事の時間を大切にしていきたい  
です。今でも家族での食事の時間は忘れずあ  
ります。今日の出来事、今日の学校行事、母  
の仕事のエピソードなど食事を通してつな  
がる思いもあるもんだなと感じました。  
どこの家庭も同じような環境ではないこと  
を知りました。

親が共働きで時間の都合上、一人で食事を  
する子や、コミュニケーションのない食事。  
いろんな人たちがいて、それぞれの家庭で

あることを忘れず、自分がこの家庭に産まれ  
て、普通に生きていられることをいつまでも  
幸せだと感じられるように「食」から生まれ  
るこころのわを実感できればいいなと思いま  
した。

私は、幼い頃からどうしても食べられない  
苦手な食べ物がありました。

それは、ゴーヤです。

母はそんな私を見て「食べ物なんだから」と、あまねるようには言いました。

そして、母はわざとらしく「ゴキチヤニプ」を作りました。私は、食べなまやいけない

雰囲気におしつぶされ食べましました。やっぱり苦手でした。ゴキチは見た目も感

触も好きになれませんでした。何より、苦味かまら

いず。  
次の日、母はハンバーグを作りました。私は、普通においしくいただきました。する

と母は「おいしい？」と

と、聞いてきました。私は、おいしいと答え

ました。私のようすをうかがいなから、母は

いたずらっぽいやつで「ゴキチ入ってんのにお

いしいの？」と  
と、言っています。おどろいた私は、もう一

口食べて、やっぱりおいしいと言いました。  
こうやって、私の好き嫌いの理解し、私が

それを克服できるような料理を作ってくれる

母は、私は愛を感じました。